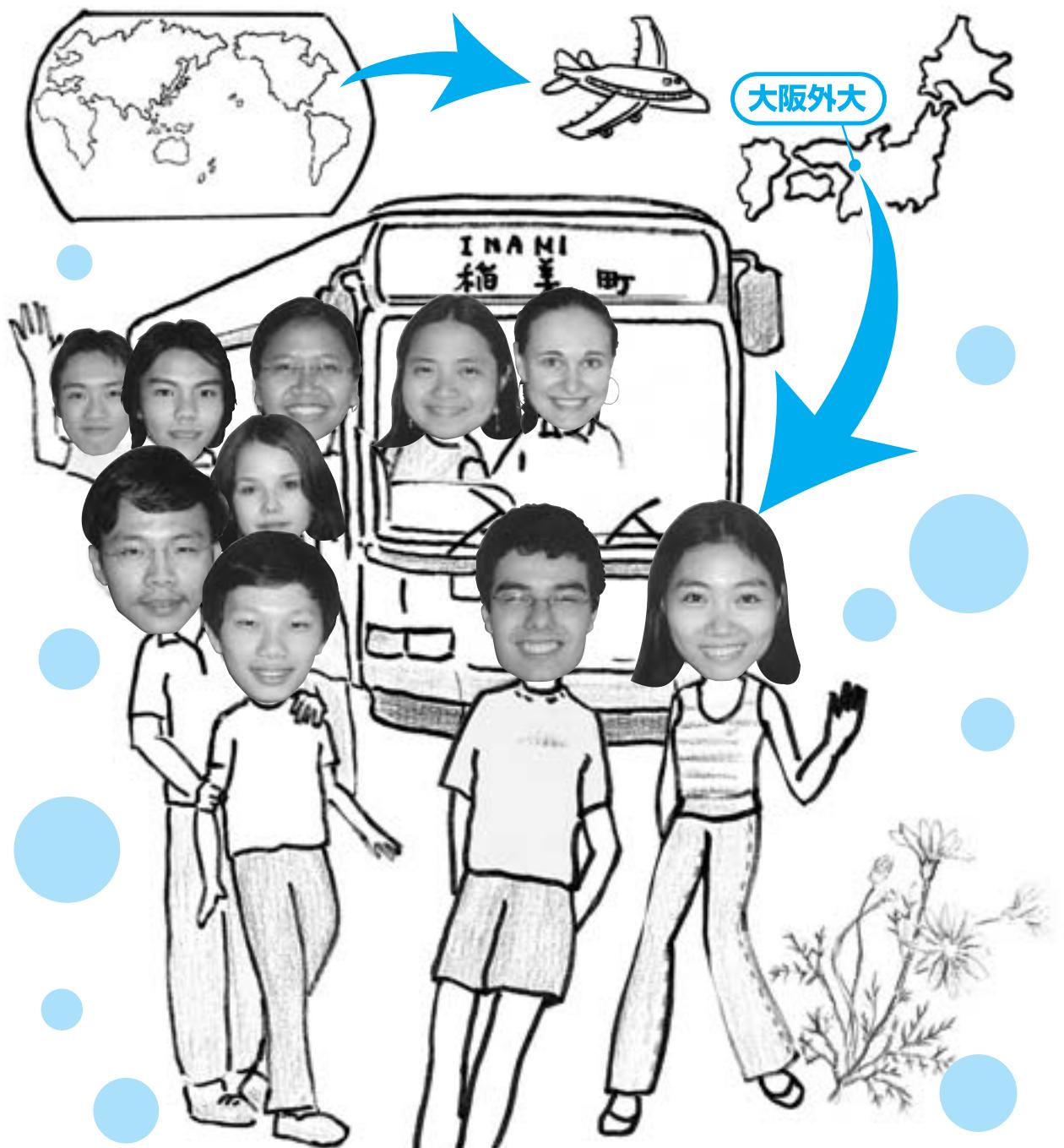


第13号

2005. 10. 1

今年で17年目となりました

ふれあい交流“いなみ野の里”(8/7~8/14)に大阪外国语大学より10人留学生が来町し、ホストファミリーをはじめ各行事を通して、稻美町の人々と暑い夏に熱き交流がなされました。



上段左から、フォン(マレーシア)、ノップ(タイ)、シルフィ(インドネシア)、ジョイ(フィリピン)、ガビ(ルーマニア)

中段左から、キムサ(カンボジア)、アンニ(フィンランド)、下段左から、リッティ(カンボジア)、リカルド(ブラジル)、ホア(ベトナム)

国が違えば文化も違う“言葉”編

日本語ではriceという単語の意味を表すために、「米」「ご飯」「稻」などの違った単語を使いますが英語ではriceという単語が、これらすべての日本語の変わりに使われます。また、英語では牛を表すためにいくつかの違った単語を使います。たとえばcow, bull, calfなど、それはイギリス人の生活に牛が深いかわりをもっているからであり、米は日本の文化で重要な役割をしているので、日本人は「米」を表すとき、異なる単語を使います。

国が違えば文化も違うということを、中学生海外派遣事業(詳細は広報いなみ10月号)でオーストラリアに行った稻美中、稻美北中両校合わせて9人の生徒たちは、肌で実感し、多くを学べ得たことでしょう。

Every country has its own cultures. "Language"

In the Japanese language we use different words such as "米", "ご飯" and "稻" to represent rice. But in the English language they just use a word "rice" for those words. The same thing happens in the English language. To represent "ushi(牛)", they use some words like cow, bull and calf. That means the word "牛" have greatly been related to the life of British people and has been a very important animal to their culture and in the same way "米" has played an important part in the Japanese culture.

I believe nine students from Inami and Inami Kita Junior High Schools sent to Perth, Australia have learned a lot by seeing many different things with their own eyes.

information

稲美町国際交流協会から

日本語講師要請講座(8/23)

中国語教室(9/9)

各講座がスタートしました。

ホストファミリー登録受付中!

来年はご家庭で異文化体験をしませんか。

会員募集

多くの方のご加入により活気があふれ、心と
こころがふれあう協会にしたいと思いますので、
ご賛同をお願いします。

稲美町国際交流協会事務局(役員企画課内)

播磨町国際交流協会から

【韓国家庭料理教室】

日時 10月7日(金) 10時~13時

場所 播磨町中央公民館

申込 播磨町国際交流協会事務局
0794-35-0356

高砂市国際交流協会から

【餅つき体験&世界の料理を囲む会】

日時 11月末の曜日

場所 高砂市 市の池公園

申込 0794-43-9132

編集後記

最近、昨日の事さえ忘れてしまう。年のせい?確かに。いいえ、日々流されて過ごしているから
だと、そんな自身の日常を反省しながら、ふと去年の夏、何に夢中だったのだろう。と考えてみた
けど、なかなか思い出せず、日記を見たらアテネ五輪に夢中だったことがわかった。ホームステイを引き受けた下さったホストファミリーの皆様や留学生達は来年、いえ何年先でも'05の夏を振り返った時、昨日の事のようにこの8日間を思い出す事でしょう。出会った奇跡を大切に長く良き交流が続きますようにと祈ります。最後にこの「わーるど」編集にあたりボランティアでご協力いただきました吉岡さん岡田さんありがとうございました。(A)

ふれあい交流“いなみ野の里” 8日間の記録

名と、昼食をはさんでの交流会。会が進むほど、お互い打ち解けていきます。昼食後は「書道」をしましたが、友・夢・和・愛・輝・寿の「文字を見本にお稽古です。三島由紀夫が好きで、日本文学を専攻したいと言っている女子学生アン・さんは、ちよつと教えるときれいに書きあげました。また、「僕は中国系で母国マレー・シアでも書道をやっている。楽しい。」と言っていたファン君。最後に、皆で唱歌亦とんぼなどを歌いました。

ロックウールによる溶液栽培で水分温度、日照、湿度等を「コンピュータ」で管理し、一年を通してトマトの栽培をされてる畠農園を見学しました。「廿二トマトひやうでないトマトは苗が違うのか、栽培方法が違うのか」と質問する学生もいました。

▲8月10日 万葉茶会 高校生と留学生が素顔で交流

各家庭でフリー タイムを過ごしました

・お別れ会 「いきがい創造センター」

「いんに歓迎されるとは思わなかつた。とにかくうれしい」シルトイ、「毎日、暖かい心に触れられて幸せな週間でした。一期一会の意味をいじりでしりました」ホア、「本当に楽しかった。ホストファミリーは楽しい家族。日本語が上手になりました。稻美最高!!」フォン、「本当に早く過ぎた週間だった。ホストファミリーはやさしい皆に会えてほんとうにうれしい。」アン、「仙波

うつたり、吹き鳴らしてみたりしました。また、ホストファミリーが自己紹介のスピーチで、ホームステイしている留学生を紹介し忘れるハプニングがあり、留学生シルフィーが「私を忘れないで下さい」とつぶやく一幕もありました。会の最後には留学生たちはきらびやかな舞台衣装の子どもたちと一緒に記念写撮影におさまり、思わずこいつり笑顔がこぼれました。

▲8月12日 ふれあい交流会 ひちりきの吹き方を教えてもらいました。



▲8月8日 PTA交流　辻元さんに包丁を上げる高さを教わっています。

いなみうどんの辻元さんの指導の下で『いなみうどん』を作りました。前日からこねて8時間ねかせ、伸ばすところから始められるよう用意されていました。留学生にとつて「伸ばす、切る、ゆでる、氷水で締める」など、どの作業も楽しかったようで、「特に氷水でしめるのが珍しい」とリツティ君。「包丁を上げる高さ」によって麺の太さが変わることですよ」とおっしゃる辻元さん。お味は?もちろん格別でした。

「私は2杯、あついえ1.5杯食べました。」と、ちょっと女の子らしさを覗かせたホアさん。

・小学生交流(天満小学校)
わらべ歌を歌い、紙風船などを一緒に楽しんだ後グループに分かれて質問タイムを交えながら折り紙をし、最後に小学生による「みかぐら」が披露されました。この「みかぐら」は、留学生の心に強く残つたようです。

対面式後、「コミセソンホールで歓迎レセプションがひらかれました。拍手で出迎えました。

稻美町のバスに乗った留学生が、大阪外国语大学から到着しました。加古クリクによる歓迎演奏の中、素敵なお笑顔でバスから降りてくる10人の留学生を、ホストファミリーは拍手で出迎えました。

対面式後、「ミセンホールで歓迎レセプションがひらかれました。

・工場見学
【QBB六甲バター稻美工場】
工場内を総務の中野さん・藤田さんが2班に分かれて案内してくださいました。恒温・恒温・塵のないクリーンルームの製造工程から作り出される多種多様のチーズに、留学生も見とれて口をあんぐり。アツアツのチーズを試食後お一人にお礼を言つて退場しました。

お腹も一杯になつたとJRでけん玉に挑戦。日本けん玉協会姫路支部の谷崎支部長にてほどきをうけ、模範演技のあと、皆で挑戦。シルフさんは初めてにもかかわらず、太皿・小皿の技が上手にできました。

○○ふれあい交流“いなみ野の里”を体験して○○

ガンバレ！若き未来の女性外交官

木村 浩三

留学生 キンシュレット・アンニエレナ・カロリーナ（フィンランド） 愛称 アンニ

初めてのホストファミリー、どうしてよいかわからず歓迎会を迎える。事前に写真や手紙などはもらっていましたが、いざ、バスから降り立つ留学生を迎える時は胸の高鳴りを覚え、全員が歓声を上げました。我が家は留学生はフィンランドからは初参加で、名前は通称アンニです。5ヶ国語を話し、日本の大学で政治学を学び将来は外交官を目指す可愛い女性です。

1週間お互い記念に残るように、色々と話し合いをしました。7月25日が20歳の誕生日だったという事なので、夕食は誕生日会を行なうことになり、一緒に買物に行き手巻き寿司とケーキでお祝いしました。フィンランド語で乾杯は“キッピス”と言います。バースデーソングの時にはもう我が家の一員になりきって、夜遅くまで語り明かしました。

交流会に参加して気付いた事は留学生の皆さん國を代表して来ているので非常に勤勉で、礼儀正しく、人なつっこく、本当に可愛い子達ばかりでした。ただ自分の語学力のなさを痛感しました。もっともっと、色々な國の事を知りたかったですが、限られた日程の中で交



流を深める時間が少なくて残念でした。

今回の経験を通してよかった点は「国際交流」に参加し、充実した1週間であったと共に、ほんのひと時でも家庭を味わってもらい、日本を稻美町をそしてアンニの母國を理解するために少しでも協力できたことです。また、フィンランドは、北欧の森と湖のきれいな、教育も世界トップレベルで福祉の進んだ国だということが解りました。最後に、16歳から親元を離れ、19歳で国を離れ、頑張っている姿を見て、私達家族は、今後もできる限りサポートしていくらよいなと思っています。ガンバレ！若き未来の女性外交官。

アンニ

この8日間の間に、かわいい踊りの対面式と、初めての面白いことをたくさん経験してきた。小学生からお年寄りまで、稻美町の方々と交流したり、姫路城へのツアーやお茶会を参加したりした。

いろいろなイベントやツアーや楽しいが、ホームステイで一番大切なことは、日本人の毎日の生活を経験することだと思う。日本人の友達がいるが、その人たちは1人で住んでいる学生で、稻美町で全体の家族の生活を少し見られて嬉しい。最初は、「私は邪魔になるか」と考えて、ちょっと緊張していた。しかし、ホストファミリーに温かく迎えられて、凄く安心した。お好み焼きを作ったり、神戸へ行ったりして、毎日夜遅くまで話をして、楽しい8日間になった。

このホームステイが、早く過ぎたが、ホストファミリーやボランティアの皆さんのお陰で良い思い出になることが多かった。稻美町に来て良かったと思う。

ようこそ、ノップ君。

仙波 圭子

留学生 トンプラシット・ノッパリット（タイ） 愛称 ノップ

我が家にホームステイにやって来たのは、いつも笑顔でニコニコ。そんなタイ人のノップ君でした。

ホストファミリー初体験で、何をかが初めての私たちの心配をよそに、彼はとても日本ツウで、すんなりと家族に溶け込んでくれたと思います。

初日はお互いに少し緊張していましたが、ノップの優しくて穏やかな人柄に、私たちはすぐに彼の事が大好きになりました。

そして、タイ語を教えてもらったり、一緒にご飯を作ったり、我が家に国際交流の小さな芽が芽生えた、とてもとても楽しく充実した1週間でした。

ノップ

私にとっては、初めての日本の家。そして、家族ができました。いろいろな経験をしました。知識がつきました。これは、授業では教えてもらえないことが学べました。あっという間に1週間が過ぎました。楽しい時間は過ぎるのが早いです。稻美町の人は私たちを本当に大切してくれました。例えば、中学校と老人クラブでは、皆に優しく親切に教えてもらいました。そして、いっぱい知識をもらいました。

ホストファミリーは親切で、私のことを家族の一員のようにしてくれました。日本人の家族になれたみたいで、毎日楽しかった。ギョーザと一緒に作ったことはとても思い出に残り、いつもお腹いっぱいになるまでご飯を食べました。もし、1ヶ月ホームステイが続けば、私は太るでしょう。

フリータイムは家族といろいろな所に行きました。全部とても楽しかったです。書写山と鹿嶋神社に行きました。日本の歴史にとても興味があるので良かった。おみくじをしたら、2回大吉だった。ラッキー。

ここでの生活は、忘れられないでしょう。また戻ってきたいです。最後に、皆さんありがとうございました。特に、私のホストファミリーに…。

松本 真理子
留学生 リー・コッ芬（マレーシア）
愛称 フォン

イケメン留学生来る!!

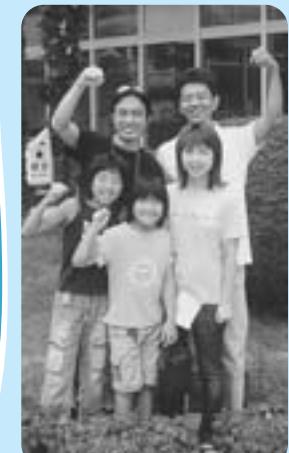
8/7日曜日。家族みんなが心待ちにしていた1週間が始まりました。マレーシアから来たフォンはとっても気さくで話しゃやすく、小学生の娘達は、昼食会の席についたとたん、すぐに仲良しになりました。

会話は日本語のみでほとんどOKでしたが、彼は中国系マレーシア人だったので、わからない単語などは漢字を書くことで理解しあいました。何よりも、まだ日本に来て4ヶ月しか経っていないというのに彼の日本語は非常に流暢で驚きました！

家では、娘達と同じように食事の支度も手伝ってくれたし、食べ終わった食器を洗ってくれた事もありました。

日本から遠く離れた暑い国の話はとても興味深く、ほとんど毎日深夜まで喋ったり遊んだりして、あっという間に1週間が過ぎてしまいました。

彼は大学卒業後、日本での就職を希望しているので、これからも一生付き合って行きたいと思っています。フォン！寂しくなったらお母さんのご飯を食べに稻美町に帰っておいで。楽しい1週間をありがとう！また絶対会おうね！開玩笑!!



フォン
いなみ野で、初めて経験したことがたくさんありました。面白かったです。ホストファミリーは優しいです。一緒にいるときはとても楽しかったです。いなみ野の人も親切です。

Ms.Sylvi Hertiana Kurnianingsihの8日間

中谷 直之
留学生 シルフィ・ヘルティアナ・クルニアニンギ（インドネシア）
愛称 シルフィ



吉本新喜劇を見て大笑いをするあなたは、本当にインドネシアから来た女の子ですか？

家族全員の洗濯物を正座してキチンとたむあなたは、本当にインドネシアから来た女の子ですか？

玄関で自分の靴を脱いだらキチンと踵をそろえ、前後に返して置くあなたは、本当にインドネシアから来た女の子ですか？そして、……

いつも、いつも、いつも、いつも笑顔でニコニコ。まわりを明るくするSylvi。

朝7時起床で良いのに、6時起床を通したSylvi。

アイスクリームをたくさん食べたSylvi。

フライドチキンが大好きなSylvi。

からい食べ物が大好きなSylvi。

大池まつりにお店の店番を一生懸命したSylvi。

Hakeemのストレス解消に、数時間もお話を相手をつとめてくれたSylvi。

Kateとすぐ仲良くなったSylvi。

なるみちゃんの相談相手になってくれたSylvi。

あなたの国で、バイク事故を起こした時、けがの痛みではなく、おああさんに叱られる恐怖で泣いた話を教えてくれたSylvi。

ジョグジャカルタの素晴らしさを伝えてくれたSylvi。

こんなシルフィをたった8日間で愛していました。優しい気持ちで、みんなと接するあなたは、この夏からパパとママの宝物となりました。

シルフィ

日本に来てからホームステイに参加したかった。しかし、あまりチャンスがなかった。このプログラムは、マレーシアの友達のすめである。このプログラムを応募するときあまり自信がなかった。なぜかと言うと、このプログラムは日本に来たばかりの留学生のためだけだと思ったから。このプログラムを参加できて凄く嬉しかった。最初はどんなホストファミリーが受け入れるかわからないから凄く不安だった。一週間ほどちょっと悩んでた。

稻美町でこんなに歓迎されるとは全然思わなかった。バスを降りてから、毎日、ずっと感激ばかり。皆は私たちに優しくしてくれて、凄く嬉しかった。交流の時にも、日本の習慣を精一杯教えてくれた。本当に感謝している。毎日のプログラムは楽しい。遊びながら日本の文化を学ぶ感じがする。もっと長いホームステイ期間が欲しい。だけど、皆もお忙しそうだから、いつも、私たちを面倒みるのはできないと思う。

このプログラムは、最高のホームステイプログラムだと思う。毎日幸せ、毎日楽しむに参加するプログラムである。稻美のホームステイに参加できて、本当に良かった。このプログラムは良い経験で、良い思い出になる。国へ帰っても、稻美町を忘れない。ここでの私の毎日は凄く幸せな日々である。本当に心からありがとうございます。

ホアさん、楽しい夏をありがとう！

大向 佐都子
留学生 レ・ティ・ヌ・ホア（ベトナム） 愛称 ホア

この夏、私たちはベトナム出身のレ・ティ・ヌ・ホアさんのホストファミリーになりました。ホアさんはとても明るく社交的、好奇心旺盛で、周りにいる人皆を暖かい雰囲気で包んでしまう不思議な魅力をもった女性でした。また日本語がたいへん堪能で、英語等で何かを説明しなければならないことはほとんどありませんでした。

ベトナムの子どもは親の手伝いをよくするそうで、彼女も食事の後片付けをしたり、洗濯物をたたんだり、本当によく私の手伝いをしてくれました。留学生がホームステイしているというより、親戚の子が遊びにきてるという感じでした。

我が家に来て2日目、ホームパーティーをしたときに、ホアさんにベトナムの春巻きの作り方を教えてもらいました。これまでもライスペーパーに興味はあったのですが、ようやく料理法が分かりました！パーティーに来た人皆で、まるで工作をするようにライスペーパーにピチャピチャ水をつけて…楽しい一日でした。生春巻きも揚げ春巻きも、それにフォーも美味しかったです！

フリータイムの日には陶芸をしに出掛けました。陶芸は初めてのホアさんでしたが、ものすごい集中力を発揮。目をキラキラさせながら「おもしろい！」約3時間で5点ほどの作品を完成させました。その他時間のあるときには、家族でかるたとり、おじゃみ、けんたまをしたり、プールに泳ぎにも行きました。中でもピアノを連弾して「チューリップ」を合唱（？）したのは感動的でした。

ホアさんは9月末には帰国し、ベトナムの大学で再び「貿易」の勉強を続ける予定です。いつか日本とベトナムを行き来するような職に就きたいというホアさん。社会人となった彼女が私たちを日本の家族と思って、再び訪ねてきてくれることを楽しみにしています。



ホア

日本に来てから10ヶ月ぶりに家族の生活にしみこめるのは稻美町です。初めての心のあたかい日本家族の雰囲気で生活して、本当に深く感動しました。そして、稻美町でどこに行っても私たちが見えるのは稻美町の人々の親切さです。

忙しい毎日を送り、全く望ましくない最後の日もついに来ました。いつの間にか日本人の生活を体験したいという気持ちの代わりに、大向さんの家に、稻美町に「もっと長くおりたい」という気持ちになりました。私は、シルフィと同じで、今年の9月に帰国して、他の留学生のように日本に長い間おり、稻美町に何回も戻れることはなかなかできなくなります。そのため、なつかしくて、心残りのような気持ちちは、極めて強くなりました。しかし、「一期一会」。大向さんの家族と稻美町の皆さんとの出会いには、偶然なのか縁があるのかわからないけど、離れて懐かしくなってもさびしさよりも幸せな思い出で、皆さんに向かっていきます。

一週間は極めて短いといつても間違いないが、本当に幸せな一週間です。毎日、美味しいご飯を作ってくれたお母さん、「いやいや」ひなちゃん、ベトナム語を熱中して勉強しているお父さん、毎日面白い交流会のために頑張ってくれた稻美町の人々にありがとうございました！

お互いに言葉の先生「目くそ鼻くそを笑う」vs「スピード」(くしゃみ)

池田 博美 留学生 ゴルゴル・リカルド・ミゾグチ(ブラジル) 愛称 リカルド

Boa tarde. Muito prazer.(こんにちは、はじめまして)と、家族みんな練習して迎えに行つたのですが、その挨拶を使うことなく仲良くなってしまったリカルドと私たちです。ブラジルといえば知っているのはジーコ監督、ロナウド、ロナウジーニョ等サッカー選手ばかりです。でもリカルドは「父はスペイン人、母は日本人だから私はサンバとサッカーは得意じゃない」と言いつつ、主人と息子と三人でボールをまわしていました。茶道部に入り、お寿司が好きで、納豆を買って食べるリカルドは私の息子よりも日本人らしく、宿題があつても私達に気を使って一緒に遅くまで居てくれる。その上好き嫌いなく何でも「おいしい、おいしい」と言って食べててくれ、こんな息子が欲しい!とつくづく思つたものです。お国柄なのか、お人柄なのかは分かりませんが、本当に可愛いリカルド少年との縁を有難く思つています。

ホームステイの途中、リカルドに「ホームステイうちで良かった?」と聞くと、すぐにニコッと笑って「よかったです!」と答えてくれ、あの笑顔に受けた側としてはホッと胸をなでおろしたものでした。息子1人と娘3人、久しぶりに受けたホームステイに子どもたちがもうホストに成長してくれているんだな、それはそれなりにうれしく思いました。主人と英語で話しているリカルドは水を得た魚のよう、内気な少年というイメージではなく、次に会える時はもっともっと楽しい時間を過ごせると思います。

あっという間の8日間、この出会いを大切にまた会いましょう。
Obrigado por tudo. Adeus.(いろいろとありがとうございました、さようなら)



リカルド

私が稻美町に来たのは本当に嬉しかったです。いろいろなことを初めて経験しました。それに、日本語をよく使いました。

池田さんのお宅で、毎日ごちそうな食事を食べさせてもらいました。日本の文化を教えてくれて、ブラジルの文化を教えてあげるのは面白かったです。そして、日本の家族の生活を経験しました。子どもたちはお母さんの家の仕事を手伝うのはびっくりしました。

いろいろな所へを連れて行きました。広場で、盆踊りを見、公園で日本の人気のスポーツをして、池の近くで花火を見ました。そして、フリータイムの日に奈良県へ行きました。そこで、天理の神社と鹿と大仏を見ました。疲れても楽しかったです。

このホームステイのスタッフと一緒に様々な所へ行きました。一番面白かったのは、小学校でした。子ども時を思い出したからです。その次は姫路城でした。中村さんが英語で案内してくれたからです。

稻美町の人々、ありがとうございました。今週のために、頑張っていることの準備ができていました。10人の留学生だけのために本当に凄いです。

一期一会の出会いを共感

船岡 実希 留学生 ドゥミトル・ガブリエラ・ヨネラ(ルーマニア) 愛称 ガビ

彼女が我が家へ来る5日前、一通の手紙が届きました。可愛いピンクの花柄の封筒の中には一文字一文字丁寧に書いたての日本語で挨拶の言葉が綴られていきました。「はじめまして、わたしはガビです。ルーマニアからきました。…私をかぞくとしてうけいれてくれてくださりありがとうございます。みなさんとおあいできるごとに楽しみにしています。…」今回で留学生のホームステイ受け入れは2回目ですがそれでも初めと同じくらいわくわく楽しめたものでした。

今年も昨年のスケジュールとほぼ同じで小学生交流、PTA交流、QBBへの工場見学、中学生交流、万葉茶会、老人交流、農家見学と稻美町のいろんな世代の人とふれあう事の出来る彼女達にとって日本の文化や習慣を学ぶにはとても良いプログラムになっていました。ガビはこれらのプログラムはみな楽しかったようですがその中でも万葉茶会に関心を示していました。とてもエレガントで美しい!“一期一会”的おもてなしの心はルーマニアや周りの国々にも似た考え方があり共感できると話してくださいました。フリータイムの時、ガビはお国料理を作ってくれました。ひき肉、じゃがいも、玉ねぎ、人参、トマト缶などを使ったミートボールスープでミネストローネに似た優しい味でとても美味しかったです。又、友達を招いてのバーベキューパーティーでは“茄子のサラダ”と言って焼きなすをベース状にして玉ねぎのみじんぎりと塩、コショウ、オイルを混ぜものを焼いたフランスパンの上にのせていただくものでさっぱりとパンとあって皆に好評でした。その日はちょうど稻美大池まつりがあったので浴衣を着せてあげました。背が高くスタイルが良いのでまるで浴衣をきたモデルのように綺麗でした。ガビも初めて着た自分の浴衣姿に満足といった様子で和室で何枚も写真を撮っていました。

今回我が家に来てくれたガビはとても繊細で控えめで礼儀正しい、西洋人でありながら日本人とどこか似た雰囲気をもつとても勉強家な女の子でした。この先も私達夫婦自慢の綺麗な妹として交流を続けられたらと感じています。今回もふれあい交流会のスタッフの皆様にはいろいろお世話になりました。

ガビ

2005年8月12日に一番印象的だったのは、ホストファミリーとその友達と一緒に、加古郡リサイクルプラザで花瓶を作りました。楽しかったです。

2005年8月13日にはバーベキューをしました。大勢の方が遊びに来てくれました。そのときは、初めておにぎり自分で作りました。バーベキューの後では、ホストファミリーと一緒に加古大池の花火まつりへ行きました。その際、浴衣を着せてもらいました。花火は夜空に咲く花のようでも美しかったです。

稻美町へ来て、初めて日本の伝統的な多くのことを体験しました。例えばお茶会や浴衣を着ることです。

いろいろな世代の人々との交流を通して、多くのことを学びました。この一週間、ホストファミリーと過ごせて本当に楽しかったです。



心のものさし

橋本 久子

留学生 ベラスケズ・ジョイレット・リリー(フィリピン) 愛称 ジョイ

私は今回この企画は初参加の上に、外部からの申込みでしたので、大きな楽しみや期待と共に、少し不安な気持を交差させつつ8/7を迎えるました。しかし14日までの日々はスタッフや他の受け入れられたご家族の暖かいお気遣いに支えられて、我が子とは異なる楽しい雰囲気の日々を送ることができました。

実は前に国選の神大生(カナダ、ルーマニア、バングラデシュ)の方々と2~3回お会いできました際、今回のジョイさんも含めて、皆様共通して強い意志、旺盛な好奇心、それに実に上手な対人関係のコントロールが彼らの心のものさしの目盛に感じられ、本当に感心致しました。

人々は各々異なった「心のものさし」を持つと言われますが、今回学生達から感じられたこれらの若さのエネルギーや柔軟な思考を、学生からのプレゼントとして私のものさしに刻み、今後精神的に若々しく、又平凡な毎日の中でも何か目的を持って、元気な日々の生活を送りたいと痛感致しました。



ジョイ

今週はとても楽しかったです。8月7日から14日まで、橋田さんの家に住んでいました。はじめに私はちょっと恥ずかしかったです。しかし、私のお母さん(ひさこさん)は、とても親切だったから楽になりました。私のお父さん(てるおさん)は、仕事があるからあまり見ませんでした。

稻美町の人はとても親切でした。皆はいつも笑っています。稻美町の人といろいろなことをしました。私の一番好きなことは、うどんを作ることです。とても面白くて、楽しくて、食べるのは凄かったです。小学校も楽しかったです。子どもと遊ぶのはとても楽しかったです。

私のホストファミリーの家はとても静かでした。3人だけ、私とお父さんとお母さん。時々テレビを見ることだけがました。一人だからです。しかし、お母さんとの話はとても面白かったです。お母さんの友達とパーティーがありました。皆は親切で楽しかったです。娘と息子の家族もいました。あの時、家はにぎやかでした。面白かったです。娘の子どもと将棋というゲームをしました。とても面白かったです。稻美町のホームステイはとても楽しかったです。この夏の一週間が忘れられません。ありがとうございました。

ようこそ、パン

中野 奈津子

留学生 ティエン・ベンリッティ(カンボジア)

愛称 リッティ

海外に行ったことのない私達は、毎回、留学生が決まってからわざわざその国のこと調べていて、今回のカンボジアは資料も少なく、アンコールワット、ポルボト、シアヌークぐらいしかわからず、どんな生活をしているのかよくわかりませんでした。でもベンがカンボジアの写真や音楽、DVDなどを持参してくれて、私たちに詳しく説明してくれ、ベンが日本の文化を知りたい以上に、私達がカンボジアの文化を知りたくなり、毎日カンボジアの事を聞いていました。甚平を着せてあけたらすごく喜んでくれ、「INAMIいけいけ総踊り」に「早く行こう」「僕が一番日本人らしい」と、最後は盆踊りの輪の中に入り、踊っていました。

しょう油、みそ、ケチャップ、マヨネーズが食べれなかったベン。今度遊びにくる時までに、カンボジア料理を1品ぐらい作れるようにがんばります。眞面目で心優しいベン。本当にベンに出会えて良かった。「稻美町が大好き」と言ってくれたベン。いつも遊びに来てくれたベン。



リッティ

稻美町は良い所です。いろいろなきれいなところがあります。稻美町は田んぼがいっぱい、カンボジアを思い出しました。人々も大変親切です。皆はあたたかい心で留学生を迎えてくれました。田舎にあるのでとても静かで、住みやすいです。大阪外国语大学へ帰った後で、すぐ帰ってきたいです。稻美町に住みたいです。

国際交流事業に参加して

前田 昭子

留学生 ソン・キムサ(カンボジア)

愛称 キムサ

7月に稻美町国際交流事務局からホームステイを受け入れてほしいとの依頼を受けました。突然の依頼であり、料理下手の私には自信がなく戸惑つてしましました。そんな折、留学生より挨拶状を受け取りました。文章もしっかり書けているし、日本語も話せるようですので受け入れを決心しました。彼はカンボジアの19歳のソン・キムサ君で、大阪外大で1年間日本語を勉強し、来年は東大とか京大を受験して経済学を勉強して、帰国後は官僚をめざすという好青年です。世界状況に無知な私は、カンボジアの地理や生活についてパソコンで探し出し勉強しました。ある日、カンボジア料理を作りたいと一緒に買物に行き、牛肉、鶏肉、ブラックタイガー、白菜、小松菜、プロッコリーを買って野菜スープを作ってくれました。調味料は、塩、味の素、砂糖のみで、材料をよく煮て、材料のうま味を出したものでした。聞く所によるとカンボジアの主食は米飯で、日本にある野菜は殆ど作られている様で、食事に馴染み持が楽になりました。又、小中学生との交流で千羽鶴や自分の名前を漢字で書いた扇子をもらって来てうれしそうに見せてくれました。「喜夢作」とは良い名前ですねと言うと彼は「夢」は大きいですと言つ。どうしてと聞くと、夢は理想ばかりを追つて働くかないで空想的な願望だからと言う。日本では、希望を持って喜んで生きることは理想的な生き方ですよ」と話すと成程と納得して、これからこの名前で手紙を書きますと言つてくれた。見学は明石大橋や天文科学館、播磨町の大中遺跡や加古川市立海洋文化センター、石の宝殿へ案内しました。寸陰を惜しんで日本の風俗、習慣や伝統文化について話し合いました。八日間の交流は楽しく走馬灯のように過ぎ去りました。このご縁を大切に稻美町が第2のふる里になつてくれることを願っています。



キムサ

私はホームステイに出かけて嬉しかったです。ホームステイの間にいろいろな活動に参加して楽しかったです。それに、いろいろな所に見学をして面白かったです。

最初の日は、子どもの踊りを見て、皆元気で面白かったです。それで、いろいろな交流があって、小学校交流で皆と一緒に遊んだり、踊りを見たり、自分の名前を漢字で書いてもらつた。それは本当にびっくりでした。

小学校交流だけでなく、PTA交流とか中学校交流とか、老人クラブ交流とかした。だいたい皆さんにカンボジアについて紹介して、日本についていろいろなことを教えてもらつて、思い出になった。姫路城やQBBチーズを見学して、いろいろなことがわかつて、良い勉強だった。姫路城は世界遺産で、国宝でもあります。それで、日本の歴史とかもつとわかつて面白かったです。そのうえ、ホストファミリーもやさしくて、親切で、ホームステイは本当に良かったです。皆にカンボジアについて紹介してあげて、日本の習慣を教えてもらつて、良い勉強だった。ホストファミリーは私と一緒にいろいろな所に行って、例えば舞子ヴィラに行って、明石大橋、世界一長い橋を見て、良かったです。それで、海洋文化センターや大中遺跡や生石神社の石の宝殿を行つた。それは楽しかったです。このように、稻美町のホームステイは大変良かったです。何でも良い思い出になつた。ホームステイは一週間しかないが、良かったです。これからもホストファミリーによく連絡して、良い関係を作ろうと思っています。稻美町はきれいで、稻美町の人も優しくて、親切です。私は稻美町が大好きです。